

心肺蘇生・AED 授業セット開発委員会設立の趣意書

1. 趣旨

本会は、学校において「命の授業」を担当の先生が自ら実施できるようになるために必要な教育機材を開発・普及するために組織されます。

小学生から繰り返し心肺蘇生法を学ぶことの環境を提供し、学校のみならず国内の救命率を向上させていくための契機といたします。

2. 目的

日本では、年間7万人を超える心臓突然死が発生しており、学校においても毎年20名前後の児童・生徒が学校内で命を落としています。学校内であっても業間休みや教室移動等、児童・生徒のみが第一発見者となる可能性は容易に想定でき、発見時に適切な対応を取れることが救命率向上へ繋がると考えられます。

また、東京オリンピック・パラリンピックが開催される2020年より全面的に実施される小学校の新・学習指導要領において、「特別の教科 道徳」の4つの内容項目のうち「主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること」の中で最初に学ぶ項目が命の尊さとなります。

小学生における心肺蘇生法の教育は、この命の尊さを学ぶための最適の内容であるにもかかわらず、①指導者不足 ②指導時間の確保 ③教材教具の準備の困難さから授業の実施が難しいという課題が挙げられています。

この課題を受け当委員会では、消防等特定の指導者に頼らず、任意のタイミングで簡単に授業を行えるような教材を制作・提供することで、教職員が自立した授業を行うことを促します。その結果、小学生からの継続的な心肺蘇生法の学習が可能となります。

命の授業セットの対象は小学校（約2万校）、中学校（約1万校）、高等学校（約5千校）の児童・生徒約1,300万人となります。その内半数に対してこの授業セットを活用した体験学習が実施されるだけで650万人もの児童・生徒が一斉に救命の知識を習得することができます。

教職員が自立し質の高い教育を行えることで児童・生徒が「命の大切さ」をより深く学び、救命の意識を高めると共に社会全体の救命率を向上させていくことが、当委員会の目的となります。

令和元年 5月 9日

経済産業大臣認可 38 企庁第 1292 号

全日本学校教材教具協同組合
理事長 小林 広 樹